

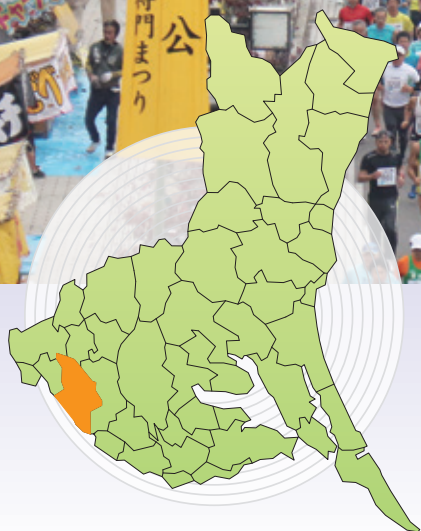
支店長のわがまち紹介

第11回

茨城県坂東市

優しい人々と100年のまちづくり

坂東市いわい将門ハーフマラソン大会 写真提供：坂東市



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第11回目は、坂東市です。筑波銀行は、“地域復興支援プロジェクト『あゆみ』”に基づき、各自治体との連携を深め、関連を強化して信頼関係の醸成を進めることによって、平成26年6月現在、9つの自治体の指定金融機関業務を取り扱っています。坂東市からは、平成21年4月1日より2年輪番制による指定金融機関の指定を受託しました。

岩井支店長の石塚幸一郎が、坂東市長 吉原英一氏、企画部長 塚原一雄氏にお話を伺いました。

●坂東市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

まず、住んでいる人が優しいことが自慢です。昭和30年代から企業誘致を進め、日本ビクター、GPIレンゴー、日本タイプライター等の工場が設置されました。機械があるのは製材所や精米所くらいだと言われていた時代に、大型機械を使う大規模な工場がたくさん建ったのです。企業関係者を中心に、多くの人に移り住み、坂東に古くから住んでいた人たちは、その人たちをあたたかく迎え入れました。外から来た人たちは地域の人と結婚し、溶け込んで定着し、よそ者ではなくなっていきました。坂東の人たちはあたたかい人柄で、頼まれると何とかしてそれに応えようとするので、たまにはだまされてしまうこともあります。それ以上に、地域にあたたかい繋がりが生まれています。

工業で人が増えましたが、古くから農業が盛んで、自然も豊かな地域です。野菜の一大産地として、レタス、夏ねぎ、はくさい、トマト、セルリーなどを栽培し、首都圏に向けて出荷しています。レタスとねぎは茨城県青果物銘柄産地^{※1}に指定され、春はくさい、トマトは青果物銘柄推進産地^{※2}

に指定されています。菅生沼にはコハクチョウが飛来します。餌づけをしていない状態で飛来してくる南限と言われています。

歴史的にも重要な地域で、平将門が没した地と伝えられ、将門が討たれた場所に國王神社が建立され、将門を祀っています。國王神社の氏子の間では、将門の命日の天慶3年(940年)2月14日にちなんで十四日講と名付けられた供養の行事が、没した翌年から現在まで脈々と続けられ、郷土の英雄を大切にしてきました。平成25年は平将門生誕1111年の記念の年で、さまざまなイベントを開催しました。

鬼怒川と利根川に挟まれた洪積土壌と、温暖でありながら適度な寒さもある気候が茶に適しており、江戸時代初期から茶が栽培されてきました。現在、「さしま茶」として茨城県のブランド茶の一つとなっています。お茶を飲む習慣が地方の庶民にまで定着した江戸時代中期には、江戸川・利根川の水運を使い、埼玉、群馬、長野(当時は武州、上州、信州)という広範囲に流通するようになりました。幕末には、



※1,2 茨城県青果物銘柄産地制度において、高品質な農産物を生産し、その信頼性・安全性が市場で高く評価され、多様化する実需者ニーズに対応できる、本県を代表する産地を茨城県青果物銘柄産地として指定しています。生産者・出荷組織・市町村・関係機関が連携して産地の発展に取り組み、銘柄推進産地として1年以上推進したのち、銘柄産地の指定要件を充たす産地が指定を受けられます。現在、銘柄産地48産地と銘柄推進産地30産地が指定を受けています。(茨城県ホームページより)

黒船来航に端を発する開国の流れに乗って積極的に海外に売り込み、日米修好通商条約締結の翌年の安政6年(1859年)に日本茶として初めて輸出され、海外でも好評を博しました。その史実を活かし、近年発売開始したペットボトル入りのさしま茶には「伝説のさしま茶」という名前をつけました。さしま茶は、東日本大震災後、放射能の影響で出荷停止となりましたが、放射能測定器をいち早く導入し、現状を素早的的確に発表する等の風評被害対策を万全に実施し、現在は全く心配なく出荷できています。

高齢者に元気で長生きしてもらい、健康を保つための取組みも行っています。平成25年12月から「坂東いきいき大学」を開講しています。70歳以上のかたが対象で、学生になると、学生証「元気で老得カード」が発行され、市主催の講演会や交通安全教室、健康体操教室などの講座の受講でポイントが貯まり、プレゼントがもらえます。「学割」もあり、協賛する市内の商店約230店で割引や優待などの特典が受けられます。

「市民健康体操」の取組みは3年目を迎えました。スクワット→もも上げ→横上げ→バンザイ背伸び→おなかの運動を音楽に合わせて行い、実施回数を1回100円というようにお金に換算して「貯筋通帳」に貯めていくのです。「貯筋残高」をチェックするテストもあり、自分の体調と貯筋残高を比較しながら、楽しく豊かな「貯筋生活」を送ってもらいたいのです。

坂東市は3世代同居率が高く、家庭内、地域内の世代間の交流も盛んで元気な高齢者がたくさんいます。平成25年にはソフトボール連続試合時間日本一を樹立しました。平成25年8月13日午前5時から8月16日午後9時まで88時間途切れなくソフトボールの試合を行い、日本一と認定されました。

●筑波銀行との関わりのなかで得られた成果、期待することについてお聞かせください。

筑波銀行には、この地域との関わりを密にもらい、商売をしている人の相談や、振込め詐欺の未然防止から銀行強盗の未然防止まで、きめ細かく動いてもらっています。支店長から若い行員まで意識が徹底していることにも感心しています。イベントは筑波銀行の支店の駐車場を活用し、広々とした空間で開催できます。筑波銀行主催の物産展は評判が良く、市民は毎回楽しみにしてい



吉原市長



塚原部長



石塚支店長

ます。今後も地域に溶け込んだきめ細かい活動を期待しています。

●今後の展望を教えてください。

市民が健康な生活を送ること、まちなかの活性化を進めること、100年後には坂東市のまちなみが世界遺産に登録されることが夢です。

2年後に完成するものが3点あります。圏央道の開通、工業団地2カ所の造成、市役所新庁舎の完成です。圏央道の開通と工業団地の造成により、企業誘致をさらに進める契機とします。市役所新庁舎は今年の秋に着工し、平成28年4月頃完成し、ゴールデンウィーク明けに業務開始予定です。敷地面積は9,000㎡で、誰にでも覚えてもらえる面積です。

まちの活性化、商店の活性化をどう進めていくかが課題です。平成24年に、中心市街地にある大塚酒造の敷地と建物を市で譲り受け、今後、歴史的に価値ある蔵や煙突を保存・活用しつつ体験型の商業集客施設「秀緑」(仮称)につくりかえる計画です。菅生沼のほとりのミュージアムパーク茨城県自然博物館の年間40~45万人の来館者を坂東市のまちなかに呼び込むための仕掛けです。体験型集客施設の核は琉球ガラス工房で、ゆくゆくは「坂東ガラス」として知られるようになることをめざします。

今までの日本の街並みは、住宅街、繁華街などの切り口でみると、どの地域も大差のないものでした。将来は、ガラス工房で制作したカラフルな板ガラスを家々の小窓に取り付け、夜になると家の明かりが小窓を通していろいろな色に輝く街並みにすることが夢です。夜を表現方法とするまちづくりは冬に行われるイルミネーションが代表的ですが、窓ガラスがカラフルになると街並みは周年美しく彩られることとなります。10年、30年と時間をかけてじっくり取組んでいきたいと考えています。

(文責：筑波総研株式会社 主任研究員 國安陽子)